

木材への接触が血圧ならびに主観評価に及ぼす影響

工業技術研究所
千葉大学 環境健康フィールド科学センター

櫻川智史 兼子知行*
宮崎良文

Effects of contact with wood on blood pressure and subjective evaluation

Satoshi Sakuragawa, Tomoyuki Kaneko and Yoshifumi Miyazaki

Journal of Wood Science, Vol.54, No.2, 107-113 (2008)

木材等への接触が生体に及ぼす影響を生理指標ならびに主観評価を用いて明らかにすることを目的とした。生理指標には連続血圧計測、主観評価にはSD法を用いた。また、木材と他の素材との熱伝導率の違いによる熱流速度の影響を除去するため、室温時の接触以外に、材料を冷却、加温した場合についても検討を加えた。その結果、木材への接触は、粗く自然な感じを与え、収縮期血圧の上昇は認められなかった。冷却した木材への接触は、主観的には危険で不快であると感じられていたが、粗さ/自然

感に残しており、血圧は上昇せず、主観評価と生理応答は対応しなかった。アルミニウムやアクリルへの接触は、室温および冷却時において、平滑で人工的、危険で不快であると感じられ、有意な血圧上昇が認められ、主観評価と生理応答が良く一致した。つまり、木材への接触においては、室温であっても冷却した場合であっても、アルミニウム等の人工物とは異なり、生理的なストレス状態は生じさせないことが明らかとなった。

*) 現 産業部技術振興室